

# 来間島の鳥類

Birds in the Kurima Area, Southwest of Miyako Island, the Ryukyu Archipelago

久 貝 勝 盛 (沖縄県立宮古工業高等学校)

## はじめに

来間島の地質、御嶽の植生等については沖縄県洞穴実態調査報告書Ⅲ(1980年)、沖縄県社寺・御嶽林調査報告Ⅳ(1981年)に詳しい。しかし、動物に関する報告はほとんどない。僅かに蝶類(1981年)、トンボ類(1976年)についての断片的な報告があるだけである。鳥類についてのまとまった報告はない。生物学的な調査報告は極めて少ない。

今回、宮古野鳥の会調査資料、新聞報道等、確実な写真記録等を参考に1980年1月から2000年3月までの過去20年間の調査を踏まえて来間島の鳥類をまとめた。また、1974年から1980年にかけて宮古高等学校生物クラブと一緒に調査した植物リストも付け加えた。

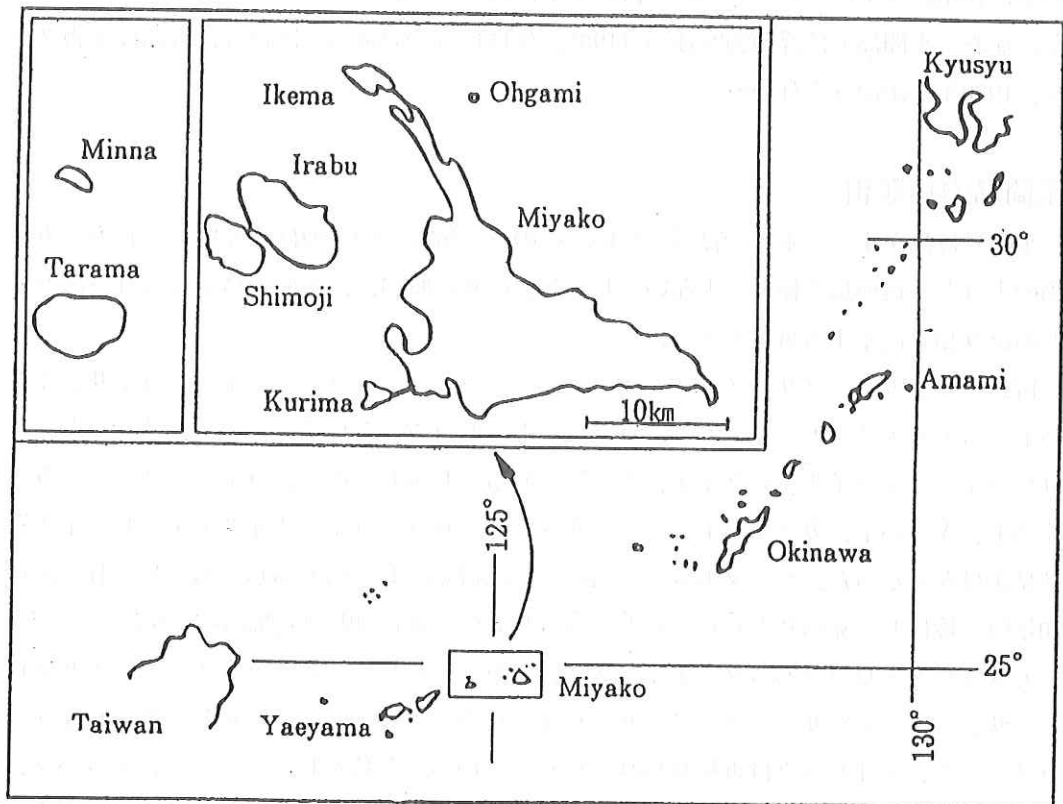


Fig.1 The Map Showing the Miyako Islands.

## 来間島の自然概観

宮古本島の南西約1.5Km離れた来間島は周囲6.42Km、面積2.84平方キロメートル、世帯数78、人口175人の小さな島で、行政区分としては下地町に入る（平成12年、宮古概観）。

島の町指定天然記念物としては来間島断層崖の植生、雨乞座のデイゴがある。地層は島尻泥岩層の上に琉球石灰岩が乗っている。

1995年3月13日に宮古本島との間に来間大橋が開通し生活は便利になった。

島の北側には高い所で海拔約45mもの断層崖が島の約半分を取り囲んでいる。島で唯一緑が残されているのはこの一帯で残りはすべて住宅地と耕作地帯である。島の第一次産業は主として葉タバコとサトウキビである。

断層崖の海岸沿いにはモクマオ、ギンネム、クロヨナ、オオハマボウ等が内側にはタブノキ、オオバギ、クロツグ、アコウ、アカテツ、クワノハエノキ等が出てくる。また、断層の中央下側には来間川（泉）があり、水が湧き出ている。以前は155段もの石段を上り下りして、集落から水汲みにきた。1975年に宮古本島から海底送水がなされ、今では、この泉は利用されていない。しかし、何百年かは島の暮らしに欠くことの出来ない泉であった。なお、来間島では蝶類約25種類（1981、久貝）、約232種類の植物（宮古高校生物クラブ、1980年）が記録されている。

## 来間島の鳥類相

来間島は島が小さく水辺や緑が乏しい。その為、留鳥そのものは少ない。またガンカモ類のような水辺の鳥も極めて少ない。しかし、渡りの時期には南西諸島で見られるほとんどの渡り鳥を観察する事ができる。

留鳥としてカイツブリ、スズメ、メジロ、ミフウズラ、ヒヨドリ、イソヒヨドリ、キジバト、ズアカアオバト、キンバト、カラスバト、セッカ、クロサギ、バン、リュウキュウヨシゴイ、オオクイナ、ヒクイナ、キジ等である。しかし、近年、カイツブリ、ズアカアオバト、キンバト、カラスバト、バン、リュウキュウヨシゴイ、オオクイナ、ヒクイナ等は見かけなくなった。ハシブトガラスもかつては留鳥として島のあちこちで見られたが1970年頃を境にして見られなくなったという（具志堅実氏）。現在は消滅種である。夏鳥としてリュウキュウコノハズク、アオバズク、アカショウビン、サンコウチョウ、エリグロアジサシ、ベニアジサシ、ツバメ、リュウキュウツバメ等がある。しかし、リュウキュウコノハズク、アオバズクは近年見られなくなっている。冬鳥としてシロハラ、アカハラ、コサギ、チュウサギ、ダイサギ、アオサギ等がある。旅鳥としてサシバ、アカハラダカ、ツミ、チョウゲンボウ、ハヤブサ、チゴハヤブサ、クロジ、ジョウビタキ、エゾビタキ、

キビタキ、メボソムシクイ、アカヒゲ、キョウジョシギ、ムナグロ、シロチドリ、ダイシヤクシギ、チュウシヤクシギ、イソシギ、アマサギ等がある。迷鳥、珍鳥としてコウノトリ、ヤツガシラ、カラムクドリ、ホシムクドリ、キマユムシクイ等がある。

来間島にはシギ・チドリ類が好む入り組んだ干潟がなく、また、すぐ近くに与那覇湾という大きな干潟があるため、渡来数は少ない。しかし、山野の鳥は島の面積が小さい割には多く観察されている。この事は島そのものが大事な渡りの中継地になっていることを示す。なお、来間島では36科128種の鳥類を記録した。その内訳は水辺の鳥53種、山野の鳥75種である。また、来間島では留鳥17種、13%、渡り鳥111種、87%である。来間島の鳥類相の特徴は観察される山野の鳥はそのほとんどが採餌中あるいは休息中であるが水鳥はそのほとんどがすぐ近くにある与那覇湾が満潮時で餌が採れない時に待機する場所として利用しているという事である。この事は水鳥の好む水辺環境が乏しいという事を意味する。

秋の風物詩で知られるサシバとアカハラダカの渡りのメインの通過地点にもなっている。

## 分布的に興味深い鳥類の記録

### コウノトリ (コウノトリ科) *Ciconia ciconia*

体長が約1 m12 cm、羽を広げると約2 mにもおよぶ大型の水鳥である。以前は日本でも兵庫県と福井県で繁殖していたが、現在は希な冬鳥として大陸から迷行するにすぎない。来間島では1981年11月17日に3羽が記録された。環境庁、県の絶滅のおそれのある野生生物のカテゴリーでは共に絶滅危惧種。国指定天然記念物。国内希少種。

### キンバト (ハト科) *Chalcophaps indica*

背と雨覆が金緑色で風切りが黒い。雄は頭が青灰色で額が白い。雌は全体的に色が淡い。北斜面の断層崖のようなよく茂った林を好む。しかし、近年あまり見かけなくなった。宮古諸島のキンバトは自然分布なのか人為的分布なの定かでないが、現在のところ宮古諸島が分布の北限である。国指定天然記念物。環境庁、県の絶滅のおそれのある野生生物のカテゴリーでは共に絶滅危惧種。国内希少種。

### コグンカンドリ (グンカンドリ科) *Fregata ariel*

亜熱帯から熱帯地域にかけて分布し世界で5種類いるが、日本にはオオグンカンドリとコグンカンドリの2種類が迷行してくる。雄の成鳥は体全身が黒く背面に白斑がでる。のどが赤い。腹部は白色。来間島近海で5月から6月にかけて時々見られる。

アカガシラサギ (サギ科) *Ardeola bacchus*

中国南部で繁殖し、冬期にはインドシナ半島あたりへ移動する。夏羽では頭と首が赤みがかかる。背面は灰色である。冬期は頭と首に黄褐色の縦斑が点在する。嘴の先端部は黒色で基部は黄色。水田、沼、草地等で両生類、魚類等を捕る。来間島では与那覇湾にあたり飛来したと思われる冬羽が時々見られる。

チゴハヤブサ (ハヤブサ科) *Falco subbuteo*

地上近くを低く速く飛び驚いて逃げまどう小鳥類を捕らえる。飛び方は直線的で羽ばたきとグライデングを交える。北海道、本州北部で繁殖し林や農耕地、草地などで生活する。宮古諸島では最初に渡ってくるハヤブサ科の鳥である。9月から10月にかけて時々見られる。

キジ (キジ科) *Phasianus colchicus*

色彩からニホンキジグループとコウライキジグループの二つに分けられている。来間島のキジはニホンキジグループである。雄は頭部、くび、胸、腹部が緑色光沢の黒色で顔は赤い。雌は雄より小さく尾も短い。全体的に黄褐色の地に黒褐色の斑紋がでる。

来間島では1982年10月4日に狩猟目的で110羽が放鳥された。現在、詳しい繁殖状況はわかっていないが確実に定着している。高良(1980年)によると雌の一腹卵数は10~14個でふ化率は約50%、生残率は30~40%であるという。雑食性である。

オオアジサシ (カモメ科) *Sterna bergii*

夏羽は頭頂部に冠羽をもつ。嘴は太くて黄色。脚は黒色。来間島近海では夏場に時々見られる。

ハジロクロハラアジサシ (カモメ科) *Sterna leucoptera*

春秋の渡り時に時々観察される個体はほとんどが冬羽である。

クロハラアジサシ (カモメ科) *Sterna hybrida*

ハジロクロハラアジサシと一緒に観察される個体はほとんどが冬羽である。

ハリオアマツバメ (アマツバメ科) *Chaetura caudacuta*

太った紡錘形の体と長めの翼、それに短い尾をもつ。喉、下尾筒は白色。

ツバメ (ツバメ科) *Hirundo rustica*

沖縄県で初めて1980年6月来間島の牛舎に隣接する農具置き場のコンクリート壁で繁殖が確認された。それ以来ほぼ毎年のように2～3番が繁殖している。

ヤツガシラ (ヤツガシラ科) *Upupa epops*

ヤツガシラの仲間は世界で一種、ユーラシア中南部、アフリカ、マダガスカル等に分布する。来間島では主に春の渡りの時に見られる迷鳥。昆虫類、トカゲ類を食べる。興奮すると冠羽をたてる。来間島ではほぼ、毎年のように2月から3月にかけてみられる。

キレンジャク (レンジャク科) *Bonbycilla gorrulus*

1997年2月、長野で66羽が落下死したことで注目をあつめた。レンジャク類は世界で3種類。そのうちヒレンジャクとキレンジャクの2種類が宮古諸島では見られる。来間島でもまれに記録される。

ミヤマホウジロ (ホウジロ科) *Emberiza elegans*

沖縄諸島には少数が冬鳥として渡ってくる。頭には目立った冠羽がある。農耕地等を好む。来間島では1982年3月22日に初めて記録された。

アトリ (アトリ科) *Fringilla montifringilla*

スズメより少し大きめ。腰は白くて尾が黒い。喉から胸、脇は橙色で腹部は白い。宮古諸島では旅鳥として20羽前後の群で時々見られる。

コムクドリ (ムクドリ科) *Sturnus philippensis*

日本には夏鳥として渡来し本州中部以北の山地の林で繁殖する。来間島では春秋の渡り時に100～500羽の群れで見られる旅鳥。サシバの渡る約一ヶ月前に見られる。

カラムクドリ (ムクドリ科) *Sturnus sinensis*

迷鳥として来間島で時々見られる。開けた農耕地、市街地、人家周辺の林や電線でコムクドリの群れに混じって2～3羽程度見られる。全身が灰色がかった白色で尾羽と翼の先端部が黒い。目は白色。餌は地上でとるが木の実も食する。

ホシムクドリ (ムクドリ科) *Sturnus vulgaris*

一羽ないし数羽がムクドリやコムクドリの中に混ざる。体全身に星を散りばめたような黄白色の斑点がある。嘴は冬羽では黒く、夏羽では赤っぽい。

ハシブトガラス (カラス科) *Corvus macrorhynchos*

メス、オス全身黒色。ハシボソガラスとは嘴が太いことで区別できる。県内ではハシボソガラスは生息しない。1950年頃はハシブトガラスが宮古諸島どこでも見られたが、農薬の大量使用と緑の大幅な減少で現在、宮古では伊良部島のみで生息している。

来間島在住の鳥獣保護委員具志堅実氏によると1960年～1970年頃を境に見られなくなったという。現在、宮古本島、多良間島、来間島、池間島では消滅種。しかし、近年、宮古島の大野山林で2～3羽目撃されるようになった。なお、宮古で見られるハシブトガラスは亜種のリュウキュウハシブトガラスである。八重山諸島で見られるカラスはオサハシブトガラスである。

アカヒゲ (ヒタキ科) *Erithacus komadori*

琉球列島の特産種である。男女群島や奄美諸島以南に分布する。雄は全体的に赤褐色で喉が黒い。雌は喉の黒さがぬける。沖縄本島と慶良間諸島で見られるのは別亜種のホントウアカヒゲ、宮古諸島や八重山諸島で見られるのは別亜種のウスアカヒゲであるという。違いは脇に黒斑がでるかでないかによる。黒斑が出るとホントウアカヒゲである。宮古諸島では春秋の渡りの時期に見られる。環境庁の絶滅の恐れのある野生生物のカテゴリーでは希少種。沖縄県では危急種。国指定天然記念物。国内希少種。

キマユムシクイ (ヒタキ科) *Phylloscopus inornatus*

大陸系の鳥である。春秋の渡りの時期に見られるが数は少ない。全体的に黄褐色。眉斑は黄白色。翼に二本の黄色味を帯びた横斑がでる。

クロジ (ホウジロ科) *Emberiza variabilis*

雄は全身が暗灰色で背中に黒褐色の縦すじがある。来間島では旅鳥または冬鳥として渡来するが個体数は少ない。しげみの中から出てくることはなく、姿を見ることは少ない。昆虫類を餌にする。

オオクイナ (クイナ科) *Rallina eurizonoides*

宮古諸島を分布の北限地にする。上面は暗赤褐色。顔から胸にかけては赤茶色。喉が白く嘴は太めで黒色。脚は緑がかかった灰色。梅雨期の頃に「クワッツ、クワッツ」と連続した声で鳴く。八重山では赤ん坊の泣き声に似ているところから「ファードウリ」とも呼ばれる。しかし、近年、来間島では見かけなくなった。

イイジマムシクイ (ヒタキ科) *Phylloscopus ijimae*

下面はくすんだ白色で淡い黄色を帯びる。眉斑は細長く黄色味のある白色。本州では夏鳥であるが、来間島では迷鳥として春秋の渡りの時期に見られる。

トラツグミ (ヒタキ科) *Zoothera douma*

ハトより小さく体の上面は黄褐色で黒色の三日月形の横斑が一面に出る。のどから下面にかけての中央部は白い。尾羽の外側は黒褐色で先端が白い。数は少ないが渡りの時期に断層崖の林道等で時々見られる。

オオルリ (ヒタキ科) *Cyanoptila cyanomelana*

迷鳥。春秋の渡りの時期にまれに見られる。顔から上面にかけてブルー (ルリ色)。のどから胸にかけて黒色。

シマアオジ (ホウジロ科) *Emberiza aureola*

迷鳥。春秋の渡りの時期にまれに見られる。雄の夏羽は頭や顔が黒色で下面はあざやかな黄色。上面は濃い赤褐色。

オオジュリン (ホウジロ科) *Emberiza schoeniclus*

迷鳥。春秋の渡りの時期にまれに見られる。数は極めて少ない。スズメより大きく背面は褐色で黒い縦のすじがある。下面は白色。来間島では牧草地で見られた。

アカハラダカ (ワシタカ科) *Accipiter soloensis*

アカハラダカは日本では繁殖せず朝鮮半島や中国東北部で繁殖し、秋にマレー諸島、フィリピン諸島、ニューギニア等に渡る。日本ではこれまで記録が少なく迷鳥として扱われてきた。ところが1980年9月に宮古島の大野山林で少数のアカハラダカの渡りが記録され、その後の調査で毎年9月10日頃から約2週間、サシバとほぼ同じ規模の渡りをする事がわかってきた。

アカハラダカは白露の頃に渡ってくるので白露のタカ渡りとも呼ばれている。来間島でも9月中旬から下旬にかけて大規模の渡りが見られる。なお、1980年から1998年までの宮古島への飛来状況は図2のとおりである(2000、宮古野鳥の会)。

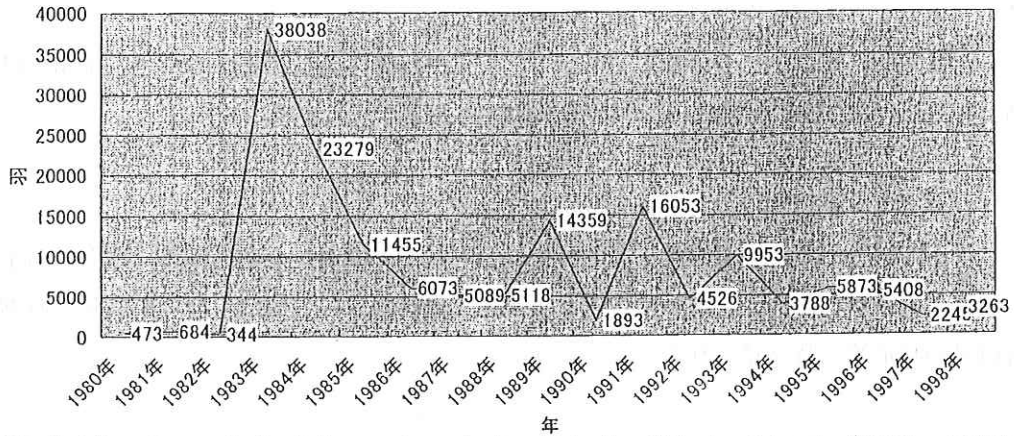


Fig.2 Migration of *Accipiter soloensis* through the Miyako Islands (1980~1998)  
(Wild Bird Society of Miyako)

## 飛来数

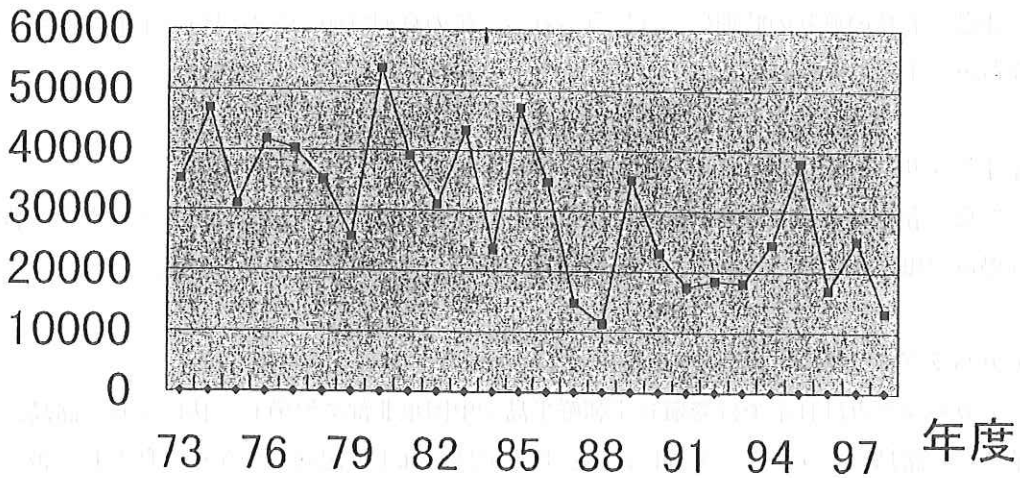


Fig.3 Migration of *Butastur indicus* through the Miyako Islands (1973~1998)  
(Wild Bird Society of Miyako)

### サシバ (ワシタカ科) *Butastur indicus*

寒露の頃になると確実に、しかも、正確に沖縄諸島に姿を見せる。サシバは秋田県以南に夏鳥として渡来し、里山の丘陵地帯で繁殖する。子育てを終えたサシバは秋には又、東南アジアに渡って行く。沖縄諸島、特に宮古諸島に大群が見られるのは秋の渡りの時である。また、宮古諸島でサシバが最も多く飛来する場所は伊良部、その次が来間島、その次が久松から与那覇湾一帯である。



以前は来間島にも数多くのサシバが飛来したというが、今はサシバの休息しそうな樹木がすべて基盤整備の名の下に破壊され、ほとんど休息する場所がない。

かつて来間島には数多くのサシバが飛来したという事を裏付ける伝説がある。タカ伝説をもつ洞窟があるのである。洞窟の名を「ツフサガーアブ」という。島の北側の切り立つような断崖の上にある。直径1メートル位の縦穴がある。地元の古老の話によると中にはいると穴はL字型の横穴になっていて100メートルくらいはあるという。その中程にタカが翼を広げた形の岩があり島の人達はそれをタカの先祖と呼んでいる。タカの群は、まず自分達の先祖を拜むために来間島に飛来し、それから各島々に渡っていくというのである(砂川金六氏、琉球新報、1993、10、3)。しかし、同島の鳥獣保護員の具志堅実氏はそういう言い伝えは知らないとの事だった。この件に関してはもう少し詳しく調査したい。

宮古諸島で見られるサシバの過去26年間の平均は30,000羽であるが、その飛来数の約90%は伊良部への飛来である(図3)。この事からすると伊良部という島がサシバにとっていかに重要な渡りの中継地点になっているかという事がわかる。

渡り鳥の集団渡来地では世界各国、各地同じであるが、鳥と人々とのタンパク源としてのつながりが深い。特に、宮古諸島のように山や川のない自然環境の乏しい所では集団渡来するサシバとの結びつきは極めて強い。宮古諸島の住民達は世界の何処にも類のないような宮古島独特のサシバ捕獲装置(ツギヤ)を造り効率的な捕獲方法を考え出したのである。来間島でも多くのツギヤが造られた。サシバのシーズン中は島中が燃えた。大人も子供も血が騒いだ。皆、こぞってサシバ捕獲に練りだした。サシバ捕獲は島人達の年に一度の楽しいハンテングになった。捕獲されたサシバは食糧にしたり、子供達の遊び玩具となった。市場にも売りに出された。そのシーズン中の貴重な換金動物にもなった。サシバが保護鳥に指定される以前には、ごく当たり前サシバ捕獲がなされたのである。

しかし、サシバが保護鳥に指定され、サシバ保護の機運が高まると、沖縄県環境保健部は毎年10月1日から31日をサシバ保護月間と定め、宮古市町村会、宮古野鳥の会、県鳥獣保護員、宮古警察署等の協力を得て強力な保護運動の取り組みを開始した。

以前(1930年代)、宮古諸島では、かなりの数のサシバが空を覆ったというが、近年、繁殖地の乱開発や中継地、越冬地での緑の減少、乱獲等でサシバの個体数が減少してきた。こういう現状をどうにかしなければという地域住民の心と県の政策が一つになったのである。

List of the Birds in the Kurima Area

来間島の鳥類目録

留 鳥

カイツブリ科 PODICIPITIDAE

カイツブリ *Podiceps ruficollis* (沖縄県では希少種)、近年その姿を見ない。

サギ科 ARDEIDAE

リュウキュウヨシゴイ *Ixobrychus cinnamomeus* (沖縄県では希少種)、近年その姿を見ない。

クロサギ *Egretta alba*

ミフウズラ科 TURNICIDAE

ミフウズラ *Turnix suscitator* (沖縄県では希少種)、土地改良基盤整備でだいぶ少なくなっている。

クイナ科 RALLIDAE

オオクイナ *Rallina eurizonoides* (環境庁、沖縄県共に危急種)、近年その姿を見ない。

ヒクイナ *Porzana fusca* (別亜種のリュウキュウヒクイナ *Porzana fusca phaeopyga*も見られ沖縄県では希少種)、近年その姿を見ない。

バン *Gallinula choropus* 近年その姿を見ない。

ハト科 COLUMBIDAE

キジバト *Streptopelia orientalis*

キンバト *Chalcophaps indica* (国指定天然記念物。環境庁、沖縄県共に絶滅危惧種。国内希少種)、近年その姿を見ない。

ズアカアオバト *Sphenurus formosae* 近年その姿を見ない。

カラスバト *Columba janthina* 近年その姿を見ない。

ヒヨドリ科 PYCNONOTIDAE

ヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis*

ヒタキ科 MUSCICAPIDAE

イソヒヨドリ *Monticola solitarius* 増加傾向にある。

セッカ *Cisticola juncidis*

メジロ科 ZOSTEROPIDAE

メジロ *Zosterops japonica*

ハタオリドリ科 PLOCEIDAE

スズメ *Passer montanus*

カラス科 CORVIDAE

ハシブトガラス *Corvus macrorhynchos* 1950年頃はよく見られたが1960～1970年頃を境にして見えなくなったという（具志堅実氏）。現在、宮古島、多良間島、池間島、来間島では消滅種。

夏鳥

カツオドリ科 SULIDAE

カツオドリ *Sula leucogaster* (沖縄県では希少種) 繁殖の確認はないが夏場によく見られる

ツバメチドリ科 GLAREOLIDAE

ツバメチドリ *Glareola maldivarum* (環境庁では希少種、沖縄県では危急種) 繁殖の確認はないが夏場によく見られる

カモメ科 LARIDAE

コアジサシ *Sterna albifrons* (環境庁、沖縄県共に希少種) 繁殖の確認はないが夏場によく見られる

ベニアジサシ *Sterna dougallii* (環境庁、沖縄県共に希少種)

エリグロアジサシ *Sterna sumatrana* (環境庁、沖縄県共に希少種)

クロアジサシ *Anous stolidus* (沖縄県では希少種)、繁殖の確認はないが夏場に見られる。

フクロウ科 STRIGIDAE

リュウキュウコノハズク *Otus scops elegans* (沖縄県では希少種)、近年その姿を見ない。

アオバズク *Ninox scutulata* 近年その姿を見ない。

カワセミ科 ALCEDINIDAE

アカショウビン *Halcyon coromanda* 近年その姿を見ない。

ヒタキ科 MUSCICAPIDAE

サンコウチョウ *Terpsiphone atrocaudata*

冬鳥

ウ科 PHALACROCORACIDAE

カワウ *Phalacrocorax carbo*

ウミウ *Phalacrocorax filamentosus*

サギ科 ARDEIDAE

ゴイサギ *Nycticorax nycticorax*

ササゴイ *Butorides striatus*

ダイサギ *Egretta alba*

チュウサギ *Egretta intermedia* (環境庁、沖縄県共に希少種) (M)

コサギ *Egretta garzetta*

アオサギ *Ardea cinerea*

ムラサキサギ *Ardea purpurea* (沖縄県では危急種) めったに見られない

ガンカモ科 ANATIDAE

カルガモ *Anas poecilorhyncha*

コガモ *Anas crecca*

ワシタカ科 ACCIPITRIDAE

ミサゴ *Pandion haliaetus* (環境庁、沖縄県共に危急種)

ツミ *Accipiter gularis* (別亜種のリュウキュウツミ *Accipiter gularis iwasakii* も見られ沖縄県では希少種)

ハヤブサ科 FALCONIDAE

チョウゲンボウ *Falco tinnunculus*

カモメ科 LARIDAE

ユリカモメ *Larus ridibundus* 海上で時々見られる

ウミネコ *Larus crassirostris* 海上で時々見られる

フクロウ科 STRIGIDAE

コミミズク *Asio flammeus* めったに見られない

カワセミ科 ALCEDINIDAE

カワセミ *Alcedo atthis* (沖縄県では希少種) 近年その姿を見ない。

ヒタキ科 MUSCICAPIDAE

アカハラ *Turdus chrysolaus*

シロハラ *Turdus pallidus*

トラツグミ *Turdus dauma*

ウグイス *Cettia diphone*

オオヨシキリ *Acrocephalus arundinaceus*

旅 鳥

サギ科 ARDEIDAE

ヨシゴイ *Ixobrychus sinensis*

アマサギ *Bubulcus ibis*

ワシタカ科 ACCIPITRIDAE

ハチクマ *Pernis apivorus*

アカハラダカ *Accipiter soloensis*

サシバ *Butastur indicus* (一部冬鳥)

ハヤブサ科 FALCONIDAE

ハヤブサ *Falco peregrinus* (環境庁、沖縄県共に危急種。国内希少種)

チドリ科 CHARADRIIDAE

- コチドリ *Charadrius dubius*  
イカルチドリ *Charadrius placidus*  
シロチドリ *Charadrius alexandrinus* (沖縄県では希少種)  
メダイチドリ *Charadrius mongolus*  
オオメダイチドリ *Charadrius leschenaultii*  
ムナグロ *Pluvialis dominica*  
ダイゼン *Pluvialis squatarola* 極めて少ない

シギ科 SCOLOPACIDAE

- キョウジョシギ *Arenaria interpres*  
トウネン *Calidris ruficollis*  
オバシギ *Calidris tenuirostris*  
エリマキシギ *Philomachus pugnax*  
ツルシギ *Tringa erythropus*  
アカアシシギ *Tringa totanus* (環境庁、沖縄県共に希少種)  
アオアシシギ *Tringa nebularia*  
クサシギ *Tringa ochropus*  
キアシシギ *Tringa brevipes*  
イソシギ *Tringa hypoleucos*  
ソリハシシギ *Xenus cinereus*  
ホウロクシギ *Numenius madagascariensis*  
ダイシャクシギ *Numenius arquata*  
チュウシャクシギ *Numenius phaeopus*  
ヤマシギ *Scolopax rusticola*

セイタカシギ科 RECURVIROSTRIDAE

- セイタカシギ *Himantopus himantopus* (環境庁、沖縄県共に希少種)

ヒレアシシギ科 PHALAROPODIDAE

- アカエリヒレアシシギ *Phalaropus lobatus*

ホトトギス科 CUCULIDAE

ホトトギス *Cuculus poliocephalus*

アマツバメ科 APODIDAE

ハリオアマツバメ *Chaetura caudacuta*

ツバメ科 HIRUNDINIDAE

ツバメ *Hirundo rustica* (一部繁殖)

リュウキュウツバメ *Hirundo tahitica* (一部繁殖)

イワツバメ *Delichon urbica*

ショウドウツバメ *Riparia riparia*

コシアカツバメ *Hirundo daurica*

セキレイ科 MOTACILLIDAE

ツメナガセキレイ *Motacilla flava*

キセキレイ *Motacilla cinerea*

ハクセキレイ *Motacilla alba*

ムネアカタヒバリ *Anthus cervinus*

サンショウクイ科 CAMPEPHAGIDAE

サンショウクイ *Pericrocotus divaricatus* (別亜種のリュウキュウサンショウクイ *Pericrocotus divaricatus tegimae* も見られ沖縄県では希少種)、めったに見られない。

モズ科 LANIIDAE

モズ *Lanius bucephalus*

アカモズ *Lanius cristatus*

ヒタキ科 MUSCICAPIDAE

アカヒゲ *Erithacus komadori* (環境庁では希少種、沖縄県では危急種。国指定天然記念物。国内希少種)

ルリビタキ *Tarsiger cyanurus*

ジョウビタキ *Phoenicurus auroreus*

ノビタキ *Saxicola torquta*

ツグミ *Turdus naumanni* (別亜種のハチジョウツグミ *Turdus naumanni naumanni* も見られる)

キビタキ *Ficedula narcissina* (別亜種のリユウキュウキビタキ *Ficedula narcissina owstoni* も見られ沖縄県では危急種)

エゾビタキ *Muscicapa griseisticta*

コサメビタキ *Muscicapa latirostris*

メボソムシクイ *Phylloscopus borealis*

#### ホウジロ科 EMBERIZIDAE

アオジ *Emberiza spodocephala*

クロジ *Emberiza variabilis*

#### アトリ科 FRINGILLIDAE

アトリ *Fringilla montifringilla*

#### ムクドリ科 STURNIDAE

コムクドリ *Sturnus philippensis*

ムクドリ *Sturnus cineraceus*

#### 迷鳥

#### グンカンドリ科 FREGATIDAE

コグンカンドリ *Fregata ariel*

#### サギ科 ARDEIDAE

アカガシラサギ *Ardeola bacchus*

#### コウノトリ科 CICONIIDAE

コウノトリ *Ciconia ciconia* (特別天然記念物、特殊鳥類)

#### ハヤブサ科 FALCONIDAE

チゴハヤブサ *Falco subbuteo*



カモメ科 LARIDAE

オオアジサシ *Sterna bergii* (環境庁、沖縄県共に希少種)

ハジロクロハラアジサシ *Sterna leucoptera*

クロハラアジサシ *Sterna hybrida*

セグロアジサシ *Sterna fuscata* (沖縄県では希少種)

ヤツガシラ科 UPUPIDAE

ヤツガシラ *Upupa epops* (沖縄県では希少種)

レンジャク科 BOMBYCILIDAE

キレンジャク *Bombycilla garrulus*

ヒタキ科 MUSCICAPIDAE

ムギマキ *Ficedula mugimaki*

キマユムシクイ *Phylloscopus inornatus*

センダイムシクイ *Phylloscopus tenellipes*

イイジマムシクイ *Phylloscopus ijimae*

オオルリ *Cyanoptila cyanomelana*

サメビタキ *Muscicapa sibirica*

オオヨシキリ *Acrocephalus arundinaceus*

ホウジロ科 EMBERIZIDAE

シマアオジ *Emberiza aureola*

オオジュリン *Emberiza schoeniclus*

ムクドリ科 STURNIDAE

カラムクドリ *Sturnus philippensis*

ホシムクドリ *Sturnus vulgaris*

Flora in the Kurima Island

来間島の植物リスト

シダ植物 Pteridophyta

フサシダ科 Schizaeaceae

ナガバカニクサ *Lygodium japonicum*(Thunb.) SW.

var. *microstachyum*(Desv.) Tard. & C. Chr.

イノモトソウ科 Pteridaceae

リュウキュウイノモトソウ *Pteris ryukyuensis* Tagawa

ホウライシダ *Adiantum capillus-veneris* L.

オシダ科 Aspidiaceae

ホシダ *Thelypteris acuminata*(Houtt.) Morton

シノブ科 Davalliaceae

タマシダ *Nephrolepis auriculata*(L.) Trimen

ホウビカンジュ *Nephrolepis biserrata*(SW.) Schott

チャセンシダ科 Aspleniaceae

ゴウシュウタニワタリ *Asplenium australasium*(J. Sm.) Hook

ウラボシ科 Polypodiaceae

オキナワウラボシ *Microsorium rubidum*(Kunze) Copel.

種子植物 Spermatophyta

裸子植物 Gymnospermae

ソテツ科 Cycadaceae

ソテツ *Cycas revoluta* Thunb

マキ科 Podocarpaceae

イヌマキ *Podocarpus macrophyllus*(Thunb.) Sweet

マツ科 Pinaceae

リュウキュウマツ *Pinus luchuensis* Mayr.

被子植物 Angiospermae

双子葉植物 Dicotyledoneae

モクマオウ科 Casuarinaceae

モクマオウ *Casuarina aquisetifolia* J.R. et J. G. Forst

コシヨウ科 Piperaceae

フウトウカズラ *Piper kadzura* (Choisy) Ohwi

ヒハツモドキ *Piper retrofractum* Vahl

ニレ科 Ulmaceae

クワノハエノキ *Celtis boninensis* Koidz

クワ科 Moraceae

イヌビワ *Ficus erecta* Thunb. ex Kaempf.

ガジュマル *Ficus microcarpa* L. f.

アコウ *Ficus superba* (Miq.) Miq.

var. *japonica* Miq.

ハマイヌビワ *Ficus virgata* Reinw. ex Bl.

ヤマグワ (シマグワ) *Morus australis* Poir.

イラクサ科 Urticaceae

カラムシ *Doehmeria nivea* (L.) Gaudich

var. *nipponivea* (Koidz.) W. T. Wang

アオカラムシ *Doehmeria nivea* (L.) Gaudich

f. *concolor* (Makino) Hatsusima, comb. nov.

ツルマオ *Gonostegia hirata* (Bl.) Miq.

ウマノスズクサ科 Aristolochiaceae

コウシュンウマノスズクサ *Aristolochia zollingeriana* Miq.

タデ科 Polygonaceae

ツルソバ *Polygonum chinense* L.

ギシギシ *Rumex japonicus* Houtt.

ヒユ科 Amaranthaceae

ムラサキイノコヅチ *Achyranthes aspera* L.

var. *rubrofusca* (Wight) Hook. f.

イヌビユ *Amaranthus lividus* L.

ハリビユ *Amaranthus spinosus* L.

イソフサギ *Phloxerus wrightii* Hook. f. ex Maxim.

ザクロソウ科 Aizoaceae

ツルナ *Tetragonia tetragonioides* (Pall.) O. K.

スベリヒユ科 Portulacaceae

スベリヒユ *Portulaca oleraceae* L.

オシロイバナ科 Nyctaginaceae

ナハカノコソウ *Boerhavia diffusa* L.

トゲカズラ *Pisonia aculeata* L.

キンポウゲ科 Ranunculaceae

サキシマボタンヅル *Clematis chinensis* Osbeck

リュウキュウボタンヅル *Clematis grata* wall.

var. *ryukyuensis* Tamura

ツツラフジ科 Menispermaceae

アオツツラフジ *Coculus orbiculatus* (L.) D. C.

ミヤコジマツツラフジ *Cyclea insularis* (Makino) Hatusima

コバノハスノハカヅラ *Stephania longa* Lour.

クスノキ科 Lauraceae

スナズル *Cassytha filiflormis* L.

タブノキ *Persea thunbergii* (S. & Z.) Kostem

ヤブニッケイ *Cinnamomum pseudo-pedunculatum* Hayata

ケシ科 *Papaveraceae*

シマキケマン *Corydalis tashiroi* Makino

ベンケイソウ科 *Crassulaceae*

セイロンベンケイ *Kalanchoe pinnata* (Lam.) Pers.

トベラ科 *Pittosporaceae*

トベラ *Pittosporum tobira* (Thunb.) Dryand ex Aiton

バラ科 *Rosaceae*

オキナワシャリンバイ *Rhaphiolepis indica* (L.) Lindle, ex Ker

ナワシロイチゴ *Rubus parvifolius* L.

マメ科 *Leguminosae*

ソウシジュ *Acacia confusa* Merr.

ハカマカズラ *Bauhinia japonica* Maxim.

エビスグサ *Cassia obtusifolia* L.

ハブソウ *Cassia torosa* Cav.

シイノキカズラ *Derris trifoliata* Lour.

デイゴ *Erythrina orientalis* (L.) Murr.

ミヤコジマツルマメ *Glycine koidzumii* Ohwi

ナハエボシグサ *Indigofera trifoliata* L.

メドハギ *Lespedeza couneata* (DuRoi) G. Don

ギンネム *Leucaena leucocephala* (Lam.) de Wit

コメツブウマゴヤシ *Medicago lupulina* L.

クロヨナ *Pongamia pinnata* (L.) Pierre

ヒメノアズキ *Rhynchosia minama* (L.) DC.

タンキリマメ *Rhynchosia volubilis* Lour.

ツノクサネム *Sesbania cannabina* (Retz.) Pers.

ハマササゲ *Vigna marina* (Burm.) Merr.

カタバミ科 Oxalidaceae

カタバミ *Oxalis corniculata* L.

ミカン科 Rutaceae

アワダン *Melicope triphylla* (Cam.) Merr.

ゲッキツ *Murraya paniculata* (L.) Jack.

サルカケミカン *Toddalia asiatica* (L.) Lam.

ヒレザンショウ *Zanthoxylum beecheyanum* K. Koch

センダン科 Meliaceae

センダン *Melia azedarach* L.

トウダイグサ科 Euphorbiaceae

エノキグサ *Acalypha australis* L.

シマヤマヒハツ *Antidesma pentandrum* (Blanco) Merr.

アカギ *Bischofia javanica* Bl.

オオシマコバンノキ *Breynia vits-idaea* (Burm. f.) C. E. C. Fischer

グミモドキ *Croton cascarilloides* Raeusch.

ツゲモドキ *Drypetes matsumurae* (Koidz.) Kanehira

ハイニシキソウ *Euphorbia chamaesyce* L.

ハマダイゲキ *Euphorbia chamissonis* (Klotsh & Garcke) Boiss.

ショウジョウソウ *Euphorbia heterophylla* L.

var. *cyathophora* (Murr.) Griseb.

シマニシキソウ *Euphorbia hirata* L.

オオバギ *Macaranga tanarius* (L.) Muell. -Arg.

アカメガシワ *Mallotus japonicus* (Thunb.) Muell. -Arg.

ヤンバルアカメガシワ *Melanolepis multiglandulosa* (Reinw. ex Bl.) Reichb. f.

& Zoll.

コミカンソウ *Phyllanthus urinaria* L.

ヒマ *Ricinus communis* L.

アマミノヒトツバハギ *Securinega suffruticosa* (Pall.) Rehd.

var. *amamiensis* Hurusawa

ニシキギ科 Celastraceae

- テリハツルウメモドキ *Celastrus punctatus* Thunb  
マサキ *Euonymus japonicus* Thunb  
ハリツルマサキ *Maytenus diversifolia* (Maxim.) Ding Hou

ムクロジ科 Sapindaceae

- コフウセンカズラ *Cardiospermum halicacabum* L.  
var. *microcarpum* (HBK) Bl.

クロウメモドキ科 Rhamnaceae

- ヒメクマヤナギ *Berchemia lineata* (L.) DC.  
ヤエヤマハマナツメ *Colubrina asiatica* (L.) Brongn  
クロイゲ *Sageretia thea* (osbeck) M. C. Johnst

ブドウ科 Vitaceae

- テリハノブドウ *Ampelopsis brevipedunculata* (Maxim.) Trautv.  
var. *hancei* (planch) Rehd

アオイ科 Malvaceae

- タカサゴイチビ *Abutilon indicum* (L.) Sweet  
フヨウ *Hibiscus mutabilis* L.  
ブッソウゲ *Hibiscus rosa-sinensis* L.  
オオハマボウ *Hibiscus tiliaceus* L.  
エノキアオイ *Malvastrum coromandelianum* (L.) Garcke  
ハイキンゴジカ *Sida rhombifolia* L.  
ssp. *insuralis* (Httts.) Hatusima  
サキシマハマボウ *Thespesia populnea* (L.) Soland. ex Correa  
オオバボンテンカ *Urena lobata* L.

オトギリソウ科 Guttiferae

- テリハボク *Calophyllum inophyllum* L.  
フクギ *Garcinia subelliptica* Merr.

スミレ科 *Violaceae*

リュウキュウコスミレ *Viola yedoensis* Makino

var. *pseudo-japonica* (Nakai) Hashimoto

パパイヤ科 *Caricaceae*

パパイヤ *Carica papaya* L.

ジンチョウゲ科 *Thymelaeaceae*

アオガンピ *Wikstroemia retusa* A. Gray

グミ科 *Elaeagnaceae*

タイワンアキグミ *Elaeagnus thunbergii* Serv.

ミソハギ科 *Lythraceae*

ミズガンピ *Pemphis acidula* J.R. & G. Forst

シクンシ科 *Combretaceae*

モモタマナ *Terminalia catappa* L.

フトモモ科 *Myrtaceae*

バンジロウ *Psidium guajava* L.

セリ科 *Umbelliferae*

ハマウド *Angelica japonica* A. Gray

マツバゼリ *Apium leptophyllum* (Pers.) F. Muell. ex Benth.

ツボクサ *Centella asiatica* (L.) Urban

チドメグサ *Hydrocotyle sibthorpioides* Lam.

ヤブジラミ *Torillis japonica* (Houtt.) DC.

ヤブコウジ科 *Myrsinaceae*

モクタチバナ *Ardisa sieboldii* Miq.



サクラソウ科 Primulaceae

ハマボックス *Lysimachia mauritiana* Lam.

イソマツ科 Plumbaginaceae

イソマツ *Limonium wrightii* (Hance) O. K.

f. *arbusculum* (Maxim.) Hatusima

アカテツ科 Sapotaceae

アカテツ *Planchonella obovata* (R. Br.) Pierre

カキノキ科 Ebenaceae

リュウキュウコクタン *Diospyros egbert-walkeri* Kosterm

リュウキュウガキ *Diospyros maritima* Bl.

モクセイ科 Oleaceae

オキナワソケイ *Jasminum sinense* Hemsl.

キョウチクトウ科 Apocynaceae

ホウライカガミ *parsonsia laevigata* (Moon) Alston

ガガイモ科 Asclepiadaceae

トウワタ *Asclepias curassavica* L.

ツルモウリンカ *Tylophora tanakae* Maxim.

サクララン *Hoya carnosa* (L. f.) R. Br.

ヒルガオ科 Convolvulaceae

アオイゴケ *Dichondra repens* Forst.

ノアサガオ *Ipomoea acuminata* (Vahl) Roem. & Schult.

グンバイヒルガオ *Ipomoea pes-caprae* (L.) Sweet

ssp. *brasiliensis* (L.) Ooststr.

ムラサキ科 Boraginaceae

モンパノキ *Argusia argentea* (L. f.) H. Hein

フクマンギ *Carmona retusa* (Vahl) Masamune  
マルバチシャノキ *Ehretia macrophylla* Wall. ex Raxb.

クマツツラ科 Verbenaceae

オオムラサキシキブ *Callicarpa japonica* Thunb.  
var. *luxurians* Rehd.  
イボタクサギ *Clerodendrum inerme* (L.) Graertn.  
イワダレソウ *Phyla nodiflora* (L.) Greene  
クマツツラ *Verbena officinalis* L.  
タイワンオオクサギ *Premna corymbosa* (Burm. f.) Rottb. & Willd  
var. *obtusifolia* (R. Br.) Fletcher  
ハマゴウ *Vitex rotundifolia* L. f.

シソ科 Labiatae

ブソロイバナ *Anisomeles indica* (L.) O. K.  
ヤンバルクルマバナ *Leucas mollissima* Wall. ex Benth.  
var. *chinensis* Benth.

ナス科 Solanaceae

メジロホウズキ *Cycianthes biflorum* (Lour.) Bitt.  
センナリホウズキ *Physalis angulata* L.  
テリミノイヌホウズキ *Solanum americana* Mill.  
ヤンバルナスビ *Solanum erianthum* D. Don  
マルバハダカホウズキ *Tubocapsicum anomalum* (Fr. & Sav.) Makino  
var. *obtusum* Makino

キツネノマゴ科 Acanthaceae

キツネノヒマゴ *Justica procumbens* L.  
var. *hayatae* (Yamamoto) Ohwi  
リュウキュウウロコマリ *Lepidagathis inaequalis* C. B. Clarke ex Elm.

オオバコ科 Plantaginaceae

オオバコ *Plantago asiatica* L.

アカネ科 Rubiaceae

- シマツナレムグラ *Hedyotis paniculata* (L.) Lam.  
ヤエヤマアオキ *Morinda citrifolia* L.  
コンロンカ *Mussaenda parviflora* Miq.  
ヘクソカズラ *Paederia scandens* (Lour.) Merr.  
ナガミボチ ヲウジ *Psychotria manillensis* Bartle. ex DC.

スイカズラ科 Caprifoliaceae

- タイワンソクズ *Sumbucus chinensis* Lindl.

ウリ科 Cucurbitaceae

- ケカラスウリ *Trichosanthes ovigera* Bl.

クサトベラ科 Goodeniaceae

- クサトベラ *Scaevola taccada* (Gaertn.) Roxb.

キク科 Compositae

- カッコウアザミ *Ageratum conyzoides* L.  
カララヨモギ *Artemisa capillaris* Thunb.  
ヨモギ *Artemisia princeps pampanini*  
ホウキギク *Aster subulatus* Michx.  
コシロノセンダングサ *Bidens pilosa* L.  
var. *minor* (Bl.) Sherff  
シロノセンダングサ *Bidens pilosa* L.  
(アワユキセンダングサ) var. *radiata* Sch.-Bip.  
ヤエヤマコウゾリナ *Blumea lacera* (Burm. f.) DC. ex Wight  
シマアザミ *Cirsium brevicaule* A. Gray  
イリオモテアザミ *Cirsium brevicaule* A. Gray  
var. *irumtiense* (Kitam.) Kitamura  
ホソバワダン *Crepidiastrum lanceolatum* (Houtt.) Nakai  
アレチノギク *Conyza bonariensis* (L.) Cronq.  
ベニバナボロギク *Crassocephalum crepidioides* (Benth.) Moore  
タカサブロウ *Eclipta prostrata* (L.) L.

ウスベニニガナ *Emilia sonchifolia*(L.)DC.  
シマフジバカマ *Eupatorium luchuense* Nakai  
ジシバリ *Lxeris debilis* A. Gray  
アキノノゲシ *Lactuca indica* L.  
ツクシメナモミ *Siegesbeckia orientalis* L.  
フシザキソウ *Synedrella nodiflora*(L.) Gaert. f.  
キダチハマグルマ *Wedelia biflora*(L.)DC.  
オニタビラコ *Youngia japonica*(L.)DC.

### 単子葉植物 Monocotyledoneae

#### タコノキ科 Pandanaceae

アダン *Pandanus odoratissimus* L. f.

#### イネ科 Gramineae

コブナグサ *Arthraxon hispidus*(Thunb.)Makino  
ダンチク *Arundo donox* L.  
ヒメアブラススキ *Capillipedium*(R. Br.)Stapf  
クリノイガ *Cenchrus brownii* Roemer et Schult  
タツノツメガヤ *Dactyloctenium aegyptium*(L.)Beauv.  
メヒシバ *Digitaria ciliaris*(Retz.)Koel  
コメヒシバ *Digitaria radicata*(Pr.) Miq.  
オヒシバ *Eleusineindica*(L.)Gaertn.  
ニワホコリ *Eragrostis multicaulis* Steud  
ノキビ *Eriochloa procea*(Rets.) C. E. Hubb.  
チガヤ *Imperata cylindrica*(L.)Beauv.  
ハナカモノハシ *Ischaemum aureum*(Hook. & Arn.) Hack  
イトアゼガヤ *Leptochloa panicea*(Retz.)Ohwi  
ハイシバ *Lepturus repens*(G. Forst.) R. Br.  
ススキ *Miscanthus sinensis* Anderss.  
エダウチジミザサ *Oplismenus compositus*(L.) Beauv.  
ハイキビ *Panicum repens* L.  
スズメノコビエ *Paspalum scrobiculatum* L.  
ナピアグラス *Pennisetum purpureum* Schumach

ホテイチク *Phyllostachys aurea* (Sieb. ex Miq.) Carr. ex A. & C. Riv.  
 リュウキュウチク *Pleioblastus linearis* (Hack.) Nakai  
 コツブキンエノコロ *Setaria pallide-fusca* (Schum.) Stapf & C. E. Hubb.  
 ザラツキエノコログサ *Setaria verticillata* (L.) Beauv.  
 エノコログサ *Setaria viridis* (L.) Beauv.  
 ハマエノコロ *Setaria viridis* (L.) Beauv.  
     var. *pachystachys* (Fr. & Sav.) Makino & Nemoto  
 ツキイゲ *Spinifex littoreus* (Brum. f.) Merr.  
 ネズミノオ *Sporobolus fertilis* (Steud.) W. D. Clayton  
 クロイワザサ *Thuarea involuta* (G. Forst) R. Br. ex Roem. & Schult  
 コウライシバ *Zoysia matrella* (L.) Merr.  
     var. *pacifica* Goudswaard

カヤツリグサ科 Cyperaceae

コゴメスゲ *Carex brunnea* Thunb.  
 アイダクグ *Cyperus brevifolius* (Rottb.) Hassk.  
 ヒメクグ *Cyperus brevifolius* (Rottb.) Hassk.  
     var. *leirolepis* (Fr. et Sav.) T. Koyama  
 ハマスゲ *Cyperus rotundus* L.  
 シオカゼテンツキ *Fimbristylis cymosa* (Lam.) R. Br.  
 ヤリテンツキ *Fimbristylis ovata* (Burm. f.) Kern  
 シマテンツキ *Fimbristylis sieboldii* Miq. ex Fr. & Sav.  
     var. *anpinensis* (Hayata) T. Koyama

ヤシ科 Palmae

ビロウ *Livistona chinensis* (Jaq.) R. Br. ex Mart  
     var. *subglobosa* (Hassk.) Becc.  
 クロツグ *Arenga tremula* (Blanco) Becc.  
     var. *engleri* (Becc.) Hatusima

サトイモ科 Araceae

クワズイモ *Alocasia odora* (Lodd.) Spach  
 ハブカズラ *Rhaphidophora pinnata* (L.) Schott

トウヅルモドキ科 Flagellariaceae

トウヅルモドキ *Flagellaria indica* L.

ツククサ科 Commelinaceae

ホウライツククサ *Commelina auriculata* Bl.

ムラサキツククサ *Tradescantia reflexa* Raf.

シマツククサ *Commelina diffusa* Burm. f.

ユリ科 Liliaceae

キキョウラン *Dianella ensifolia* (L.) DC.

f. *reemulifera* (Schiffner) Liu & Ying

カラスキバサンキライ *Heterosmilax japonica* Kunth

テッポウユリ *Lilium longiflorum* Thunb.

ジャノヒゲ *Ophiopogon japonicus* (Thunb.) Ker-Gawl.

ツルボ *Scilla scilloides* (Lindl.) Druce

ハマサルトリイバラ *Smilax sebeana* Miq.

リュウゼツラン科 Agavaceae

リュウゼツラン *Agave americana* L.

cv. *Marginata*

ヒガンバナ科 Amaryllidaceae

ハマオモト *Crinum asiaticum* L.

var. *japonicum* Baker

ノビル *Allium grayi* Regel

ショウガ科 Zingiberaceae

ゲットウ *Alpinia zerumbet* (Pers.) Burt & Smith

## 謝 辞

本稿の作成にあたっては宮古野鳥の会、下地町鳥獣保護員の具志堅実氏、伊良部高等学校教頭の川上勲氏に大変お世話になった。心から感謝したい。

## 摘 要

- 1 1980年1月から2000年3月までの調査結果と新聞や文献資料等から来間島の鳥類目録と植物目録を作った。
- 2 来間島では77科232種類の植物を記録した。
- 3 来間島では36科128種類の鳥を記録した。その内訳は山野の鳥が75種、水辺の鳥が53種でその比率はおおよそ1.4 : 1であった。
- 4 来間島は留鳥は17種類で約13%、渡り鳥は111種類で約87%。渡り鳥主体の鳥相である。
- 5 面積が小さい割には数多くの水鳥、山野の鳥が記録されている。
- 6 地形は単調で山も川もない平坦な島であるが渡り鳥にとって最適な中継地である。
- 7 宮古諸島においては他の地域に比べて渡り途中の山野の鳥類が多く見られる所である。
- 8 開発と緑を残す調和をどうするかが今後の大きな課題である。
- 9 来間島のハシブトガラスは1960~1970年頃を境にして姿を消したようである。
- 10 現在来間島の森林面積は10%以下で海岸や耕作地周辺の防風林、防潮林の計画的な造林が望まれる。

## 参考文献

- 池原貞雄監修 1990 いらぶの自然 (動物編)  
いらぶの自然編集委員会 1995 いらぶの自然 (植物編)  
沖縄野鳥研究会 1993 沖縄県の野鳥 沖縄出版  
「沖縄県統計年鑑」(平成3年~5年)  
「沖縄の林業」平成6年度(沖縄県林務課、平成7年3月)  
沖縄県企画開発部 1998 離島関係資料 PP46  
沖縄県宮古支庁総務課 2000 宮古概観 PP1~3  
沖縄県教育委員会 1980 沖縄県洞穴実態調査報告Ⅲ  
沖縄県教育委員会 1981 沖縄県社寺・御嶽林調査報告Ⅳ  
久貝勝盛・山本晃 1981 宮古群島の鳥類目録 沖生研究会誌第14号 PP15~29  
——— 1981 宮古群島のチョウ・トンボ・セミ類 沖生研究会誌第14号  
PP40~46

- サシバと伊良部島 いらぶの自然（動物編） PP216～234
- 1995 池間島の鳥 平良市総合博物館紀要第2号PP79～86
- 1996 日本におけるサシバの秋の渡り 沖縄県立博物館紀要第22号  
PP153～172
- 1996 平良市の鳥 平良市自然環境保全基本構想 PP149～160
- 1996 下地町与那覇湾一帯の鳥類相 平良市総合博物館紀要第3号  
PP85～103
- 1997 伊良部の鳥 平良市総合博物館紀要第4号PP35～56
- 1998 多良間島・水納島の鳥類 平良市総合博物館紀要第5号PP39～68
- 小浜継雄 1976 宮古群島のトンボ類 Tombo, 19;17～20
- 高良鉄夫 1980 鳥獣保護連絡協議会講演 キジの生息調査について
- 仲間勇栄 1996 宮古島の地下水と森林環境の保全 平良市自然環境保全基本構想  
PP63～64
- 初島住彦・天野鉄夫 1994 琉球植物目録
- 平良市教育委員会 1994 平良市史第9巻、資料編7（御嶽編） PP648
- 宮古高校生物クラブ 1980 来間島の植物 がり版刷り
- 宮古観光協会 1978 南海の宮古島 PP65
- 琉球政府経済局林務課「琉球林業の概要」（1957年2月）7～8頁
- Wild Bird Society of Japan 1982 A Field Guide to the Birds of Japan.